

## ★れる・られる

助動詞「れる・られる」には、次の四つの意味があります。

ア、受け身：「××が××によってくされる」の意味。

\*私は父にしかられる。

\*ぼくは兄にたたかれば、必ずやりかえす。

\*私は先生にほめられた。

\*そのビルは一瞬にしてこわされた。

イ、尊敬：目上の人の動作に付けて、尊敬語となる。

\*先生は出かけられました。

\*あなたはピアノを弾かれますか。

\*それを聞けば、きっと安心されるでしょう。

ウ、可能：「くできる」の意味。

\*その村に行けば、無数の星が見られる。

\*三時までに来られれば、間に合うよ。

\*好ききらいがないので、何でも食べられた。

エ、自発：「自然に考えが浮かぶ」の意味。「思う」「思い出す」「感じる」「し  
のぶ」「案じる」「心配する」「疑う」など、考えや心の動きを表す動詞に  
しか付かない。

\*妹のことが案じられる。

\*去年のことが思い出されてならない。

\*ばかばかと暖かく、春が感じられた。

問題一、次の「れる・られる」は、それぞれ ア、受け身（××が××によって～される） イ、尊敬（目上の人の動作に付けて尊敬語となる） ウ、可能…（～できる） エ、自発（自然に考えが浮かぶ） のどの意味か考え、記号で答えなさい。

1、先生はもうすぐ来られるだろう。

2、父に厳しく注意されました。

3、最初のシュートがたたきこまれた。

4、ふるさどが思い出されてならない。

5、その丘に登れば、町中がながめられる。

6、大好きだったおじいちゃんがしのばれる。

## ★れる・られるの接続

\*助動詞「れる」は、五段活用（あいうえお動詞）、およびサ行変格活用（する動詞）の、それぞれ未然形（「くない」につながる形）にしか接続しません。五段、サ変以外の動詞には「られる」が接続します。

（動詞については、シリーズ三十二、三十三「文法の特訓 動詞編上・下」を参照）

- ×見れる ↓ ○見られる（見るⅡ上一段活用）
- ×来れる ↓ ○来られる（来るⅡカ行変格活用）
- ×食べれる ↓ ○食べられる（食べるⅡ下一段活用）
- ×着れる ↓ ○着られる（着るⅡ上一段活用）
- ×出れる ↓ ○出られる（出るⅡ下一段活用）

「見れる」「来れる」などは「ら抜き言葉」と言って、正しい用法ではありません。テストでは×になりますので、注意しましょう。

\*また「飲めれる」のように、「飲める」という可能動詞（「…できる」という意味を含んだ動詞）に「れる」を接続する誤った言い方も最近見受けられるので、まちがわないようにしましょう。

- ×飲めれる ↓ ○飲める                      ×笑えれる ↓ ○笑える
- ×歌えれる ↓ ○歌える                      ×書けれる ↓ ○書ける
- ×読めれる ↓ ○読める

「れる・られる」の正しい使い方を知っていないと、このようなひどいまちがいにいつながってしまいます。普段から正しいことばを使うように心がけましょう。

問題二、次の□に、「れ」「れる」「られ」「られる」のいずれかを書き入れて、正しいことばにしなさい。

1、先生はもうすぐ来

だろう。

2、父に厳しく注意さ

ました。

3、最初のシュートがたたきこま

た。

4、ふるさどが思い出さ

てならない。

5、その丘に登れば、町中がながめ

。

6、大好きだったおじいちゃんがしのば

。